

### 3. モニタリング測定値に係る対応基準値（全β/全α放射能濃度比）の見直し

全β/全α放射能濃度比については、平成15年の1年間の調査結果を基に、対応基準値が設定され運用されている。7月から8月に佐渡関岬測定所において当該対応基準値を超える結果が数日に渡り確認された。原因を調査したが機器の不具合や降雨の影響とは考えられなかったため、全β/全α放射能濃度比の変化について調査した。

表6 全β/全α放射能濃度比の推移（平成15年～平成19年）

	利尻	竜飛岬	筑波	佐渡関岬	越前岬	伊自良湖	隠岐	蟠竜湖	橋原	対馬	五島	辺戸岬
平成15年	1.3	1.3	1.5	1.2	1.5	1.3	1.4	1.2	1.3	1.4	1.2	1.3
平成16年	1.4	1.3	1.5	1.3	1.5	1.3	1.3	1.2	1.4	1.4	1.3	1.2
平成17年	1.4	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.3	1.2	1.3
平成18年	1.3	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4	1.2	1.3
平成19年	1.3	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.4	1.3	1.4	1.5	1.3	1.2

表6に示す通り、佐渡関岬測定所については平成15年から平成19年にかけて全β/全α放射能濃度比が徐々に変化している事が確認された。変動の原因の詳細は不明であるが、対応基準値については、3年間程度のデータを基に算出するのが良いと考えられる。平成17年から平成19年までの3年間の全β/全α放射能濃度比の平均値及びその値の1.5倍の値を表7に示す。表7の値を新たな対応基準値として用いることとする。

表7 全β/全α放射能濃度比の平均値及び対応基準値  
（平成17年から平成19年のデータを基に算出）

	利尻	竜飛岬	筑波	佐渡関岬	越前岬	伊自良湖	隠岐	蟠竜湖	橋原	対馬	五島	辺戸岬
平均値	1.3	1.3	1.4	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3	1.4	1.4	1.2	1.3
対応基準値	2.0	2.0	2.1	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0	2.1	2.1	1.8	2.0